

次期中長期目標における 評価軸・評価指標等(案)について

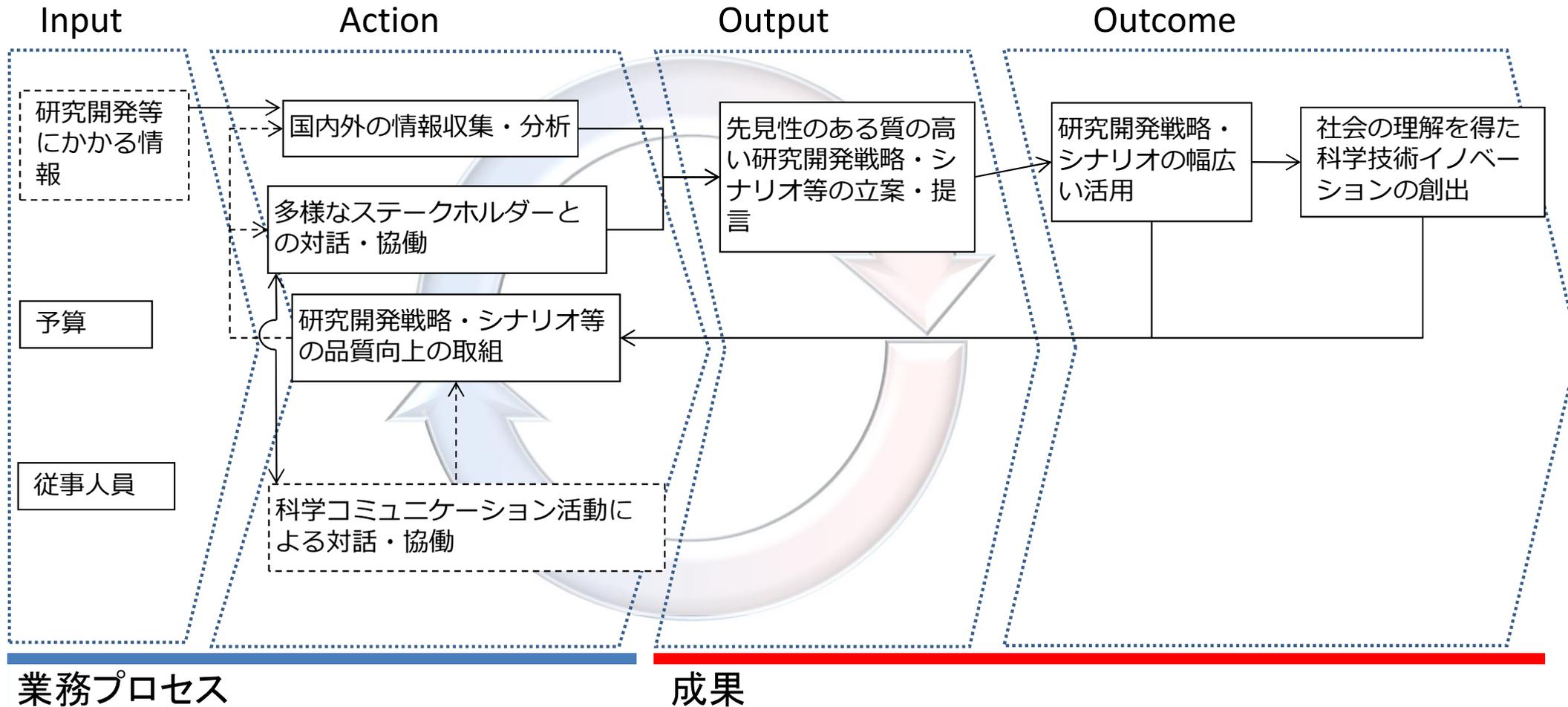
平成28年12月13日

業務の柱と既存事業との関係

業務の柱	事業
1. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言	
1.1. 先見性のある研究開発戦略の立案・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発戦略センター事業 ・中国総合研究・交流センター事業 ・低炭素社会実現のための社会シナリオ研究事業
2. 知の創造と経済・社会的価値への転換	
2.1. 未来の産業創造と社会変革に向けた研究開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・未来社会創造事業（ACCEL・ALCA・A-STEP I・先端計測の新規採択分を再編し、新規事業として設置） ・戦略的創造研究推進事業（CREST、ERATO、さきがけ、ALCA・ACCELの既存採択分、RISTEX） ・研究成果展開事業（A-STEP Iの既存採択分、バリュープログラム、先端計測の既存採択分）
2.2. 人材、知、資金の好循環システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <共創の[場]の形成支援> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果展開事業（COI、リサコン、OPERA） ・イノベーションハブ構築事業 <企業化開発・ベンチャー支援・出資> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果展開事業（A-STEP II・III） ・産学共同実用化開発事業（NexTEP） ・研究成果展開事業（START） ・出資型新事業創出プログラム（SUCCESS） <知的財産の活用支援> <ul style="list-style-type: none"> ・知財活用支援事業
2.3. 国境を越えて人・組織の協働を促す国際共同研究・国際交流・科学技術外交の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国際科学技術共同研究推進事業 ・国際科学技術協力基盤整備事業（含む外国人宿舎） ・日本・アジア青少年サイエンス交流事業
2.4. 情報基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術情報連携・流通促進事業 ・科学技術文献情報提供事業 ・ライフサイエンスデータベース統合推進事業
2.5. 革新的新技術研究開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ImPACT
3. 未来共創の推進と未来を創る人材の育成	
3.1. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術コミュニケーション推進事業
3.2. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代人材育成事業
3.3. イノベーションの創出に資する人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・研究人材キャリア情報活用支援事業 ・プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム ・研究公正推進事業

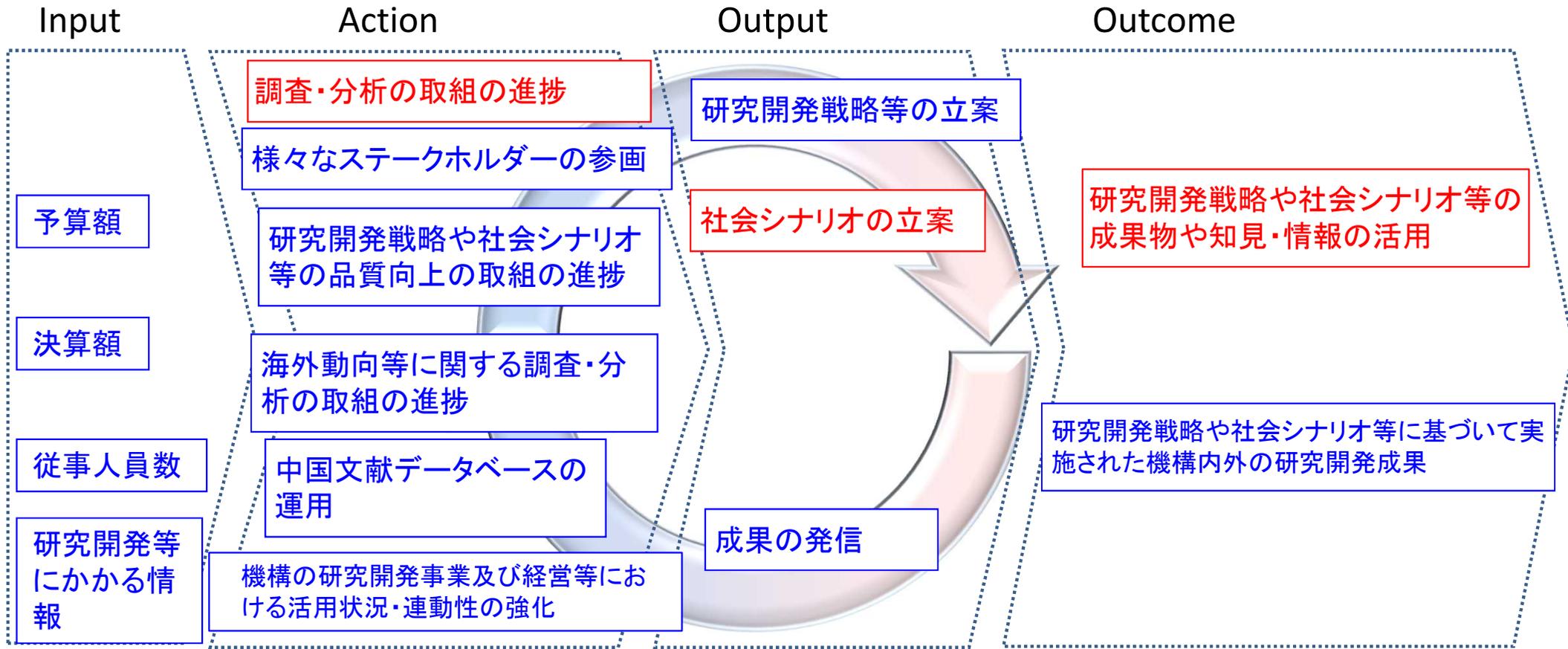
1. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

目標: 大変革時代において、科学技術の振興を通じて、我が国が将来にわたり競争力を維持・強化し、国際社会の持続発展に貢献していくためには、先行きの見通しが立ちにくい中にあっても国内外の潮流を見定め、社会との対話・協働や客観データの分析を通じ、科学への期待や解決すべき社会的課題を可視化して、先見性のある研究開発戦略を立案・提言する。



1.1.先見性のある研究開発戦略の立案・提言(評価軸・指標)

目標:最新の価値ある情報の収集を可能とする人的ネットワークを構築し、国内外の科学技術政策及び研究開発の動向、社会的・経済的ニーズ等の調査・分析を行った結果に基づき、我が国が進めるべき先見性のある質の高い研究開発戦略の提案を行う。また、2050年の持続的発展を伴う低炭素社会の実現に向けて、将来の社会の姿を描き、その実現に至る道筋を示す質の高い社会シナリオ・戦略の提案を行う。



業務プロセス

評価軸: 研究開発戦略・社会シナリオ等の立案に向けた活動プロセスが適切か。

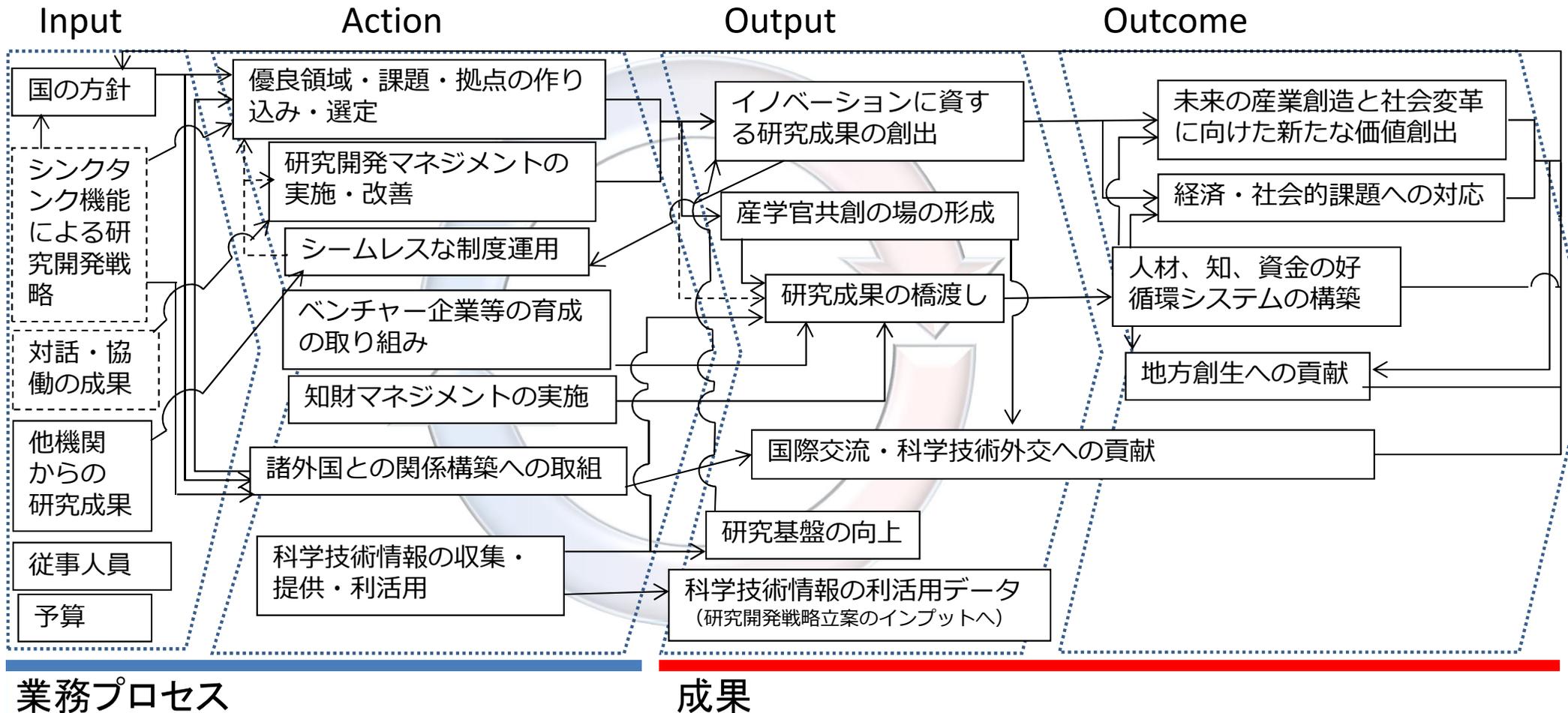
成果

評価軸: 先見性のある質の高い研究開発戦略・社会シナリオ等を立案し、政策・施策や研究開発等に活用されているか。

青: モニタリング指標 赤: 評価指標

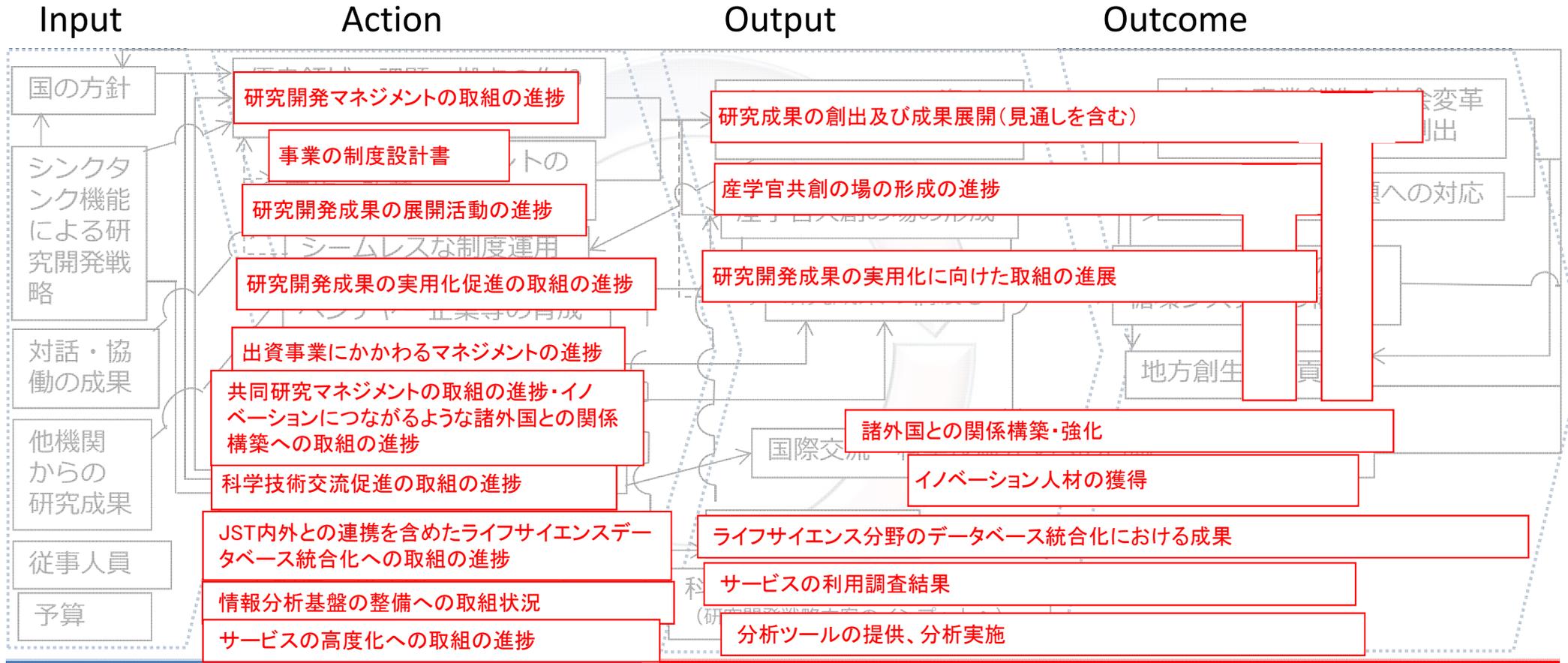
2. 知の創造と経済・社会的価値への転換

目標: 機構は、ネットワーク研究所としての特長を生かし、変容する社会に対応し、イノベーションにつながる独創的・挑戦的な研究開発を主体的に推進することで、未来の産業構造と社会変革に向けた新たな価値の創出と経済・社会的課題への対応を行う。



2. 知の創造と経済・社会的価値への転換(評価軸・指標)

目標: 機構は、ネットワーク研究所としての特長を生かし、変容する社会に対応し、イノベーションにつながる独創的・挑戦的な研究開発を主体的に推進することで、未来の産業構造と社会変革に向けた新たな価値の創出と経済・社会的課題への対応を行う。



業務プロセス

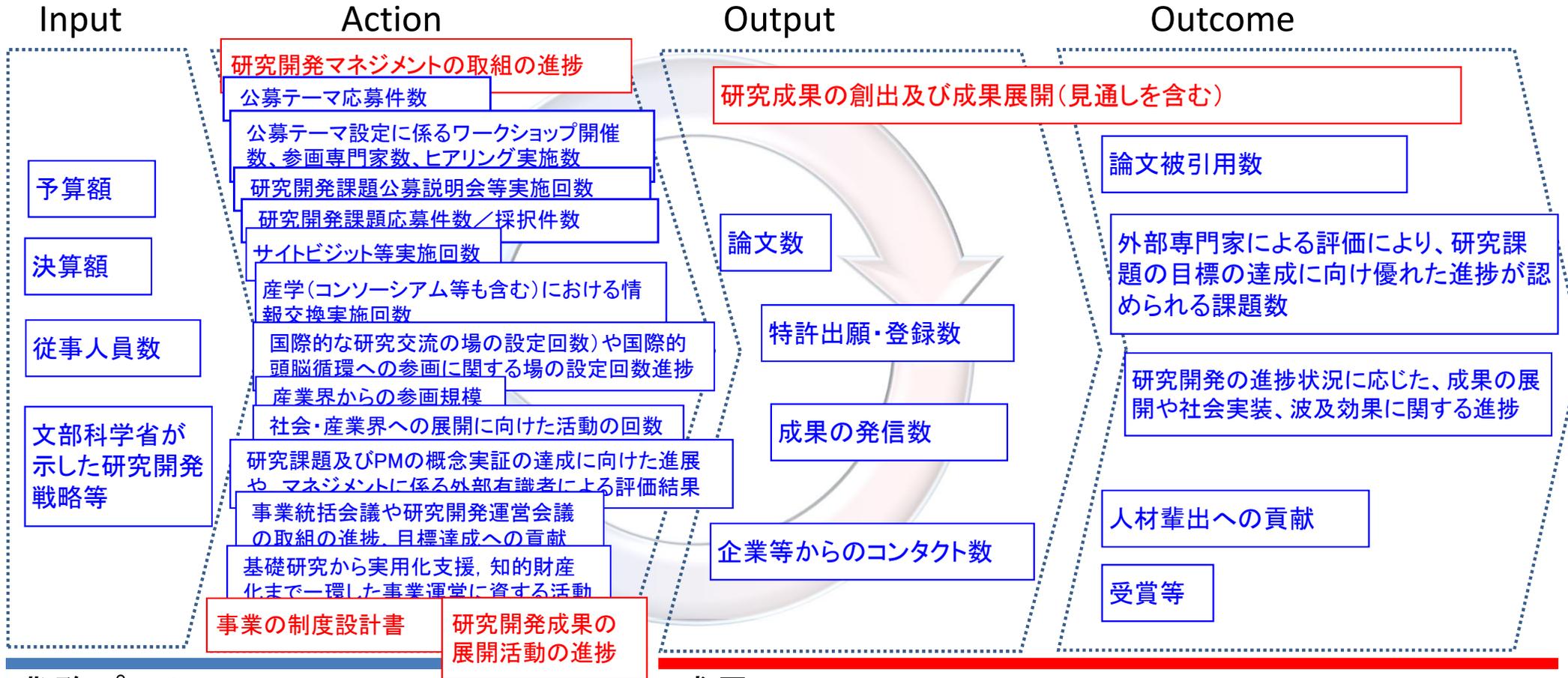
- 評価軸①: イノベーションに繋がる独創的・挑戦的な研究開発マネジメント活動は適切か
- 評価軸②: 優良課題の確保、適切な研究開発マネジメントを行っているか
- 評価軸③: 研究開発成果の実用化促進(出資・ベンチャー支援、知財支援等)の取組は適切に機能しているか
- 評価軸④: 国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する国際的な枠組みの下実施される共同研究等のマネジメントは適切か
- 評価軸⑤: 科学技術交流を促進するための取組は適切か
- 評価軸⑥: 効果的・効率的な情報収集・提供・利活用に資するための新技術の導入や開発をすることができたか
- 評価軸⑦: ユーザーニーズに応えた情報の高度化、高付加価値化を行っているか
- 評価軸⑧: ライフサイエンス分野の研究推進のためのデータベース統合の取組は適切か

成果

- 評価軸①: 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出や経済・社会課題への対応に資する成果が生み出されているか
- 評価軸②: 産学官共創の場が形成されているか。
- 評価軸③: 研究開発成果の実用化・社会還元が促進されているか(出資・ベンチャー支援、知財支援等)。
- 評価軸④: 国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する研究成果や科学技術外交強化への貢献が得られているか
- 評価軸⑤: 科学技術イノベーション人材の獲得に資する交流が促進されているか
- 評価軸⑥: 科学技術イノベーションの創出に寄与するため科学技術情報の流通基盤を整備し、流通を促進できたか
- 評価軸⑦: ライフサイエンス研究開発の活性化に向けたデータベース統合化の取組は、効果的・効率的な研究開発を行うための研究開発環境の整備・充実に寄与しているか

2.1.未来の産業創造と社会変革に向けた研究開発の推進（評価軸・指標）

目標: 研究開発の推進にあたっては、産学官で将来のビジョン・課題を共有した上で文部科学省が示す全体戦略の下、従来の細分化された研究開発プログラム別の運用制度を本中長期目標期間中に抜本的に再編し、プログラム・マネージャーの下で基礎研究から実用化支援まで一貫して実施可能な体制を構築する。



業務プロセス

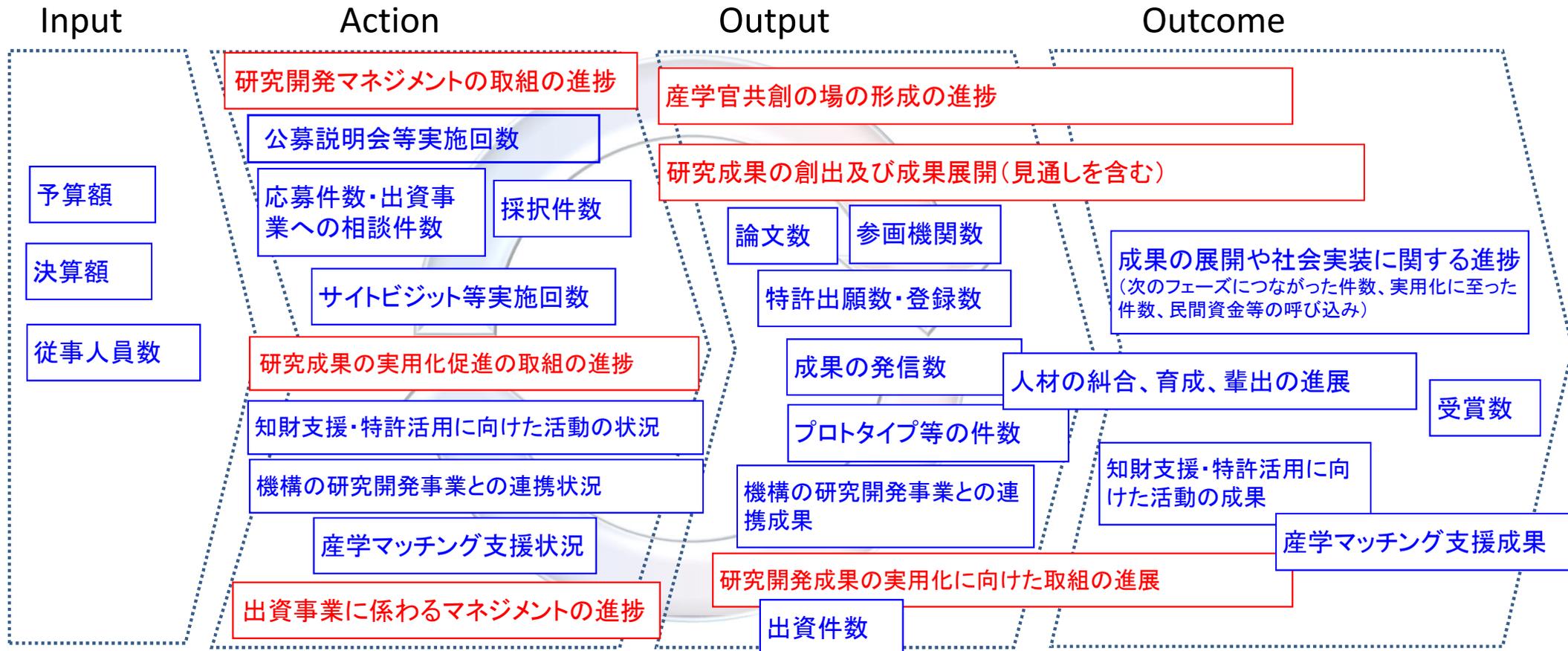
評価軸①: イノベーションに繋がる独創的・挑戦的な研究開発マネジメント活動は適切か

成果

評価軸①: 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出や経済・社会課題への対応に資する成果が生み出されているか

2.2.人材、知、資金の好循環システムの構築(評価軸・指標)

目標:組織対組織の本格的産学官連携を強化するためのシステム改革に資する取組を推進することにより、大学・公的研究機関等を中心とした場の形成と活用を図り、大学・公的研究機関の産学官連携のマネジメント強化を支援するとともに、企業化開発やベンチャー企業等への支援・出資、知的財産の活用支援等を行い、民間資金の呼び込み等を図る。



業務プロセス

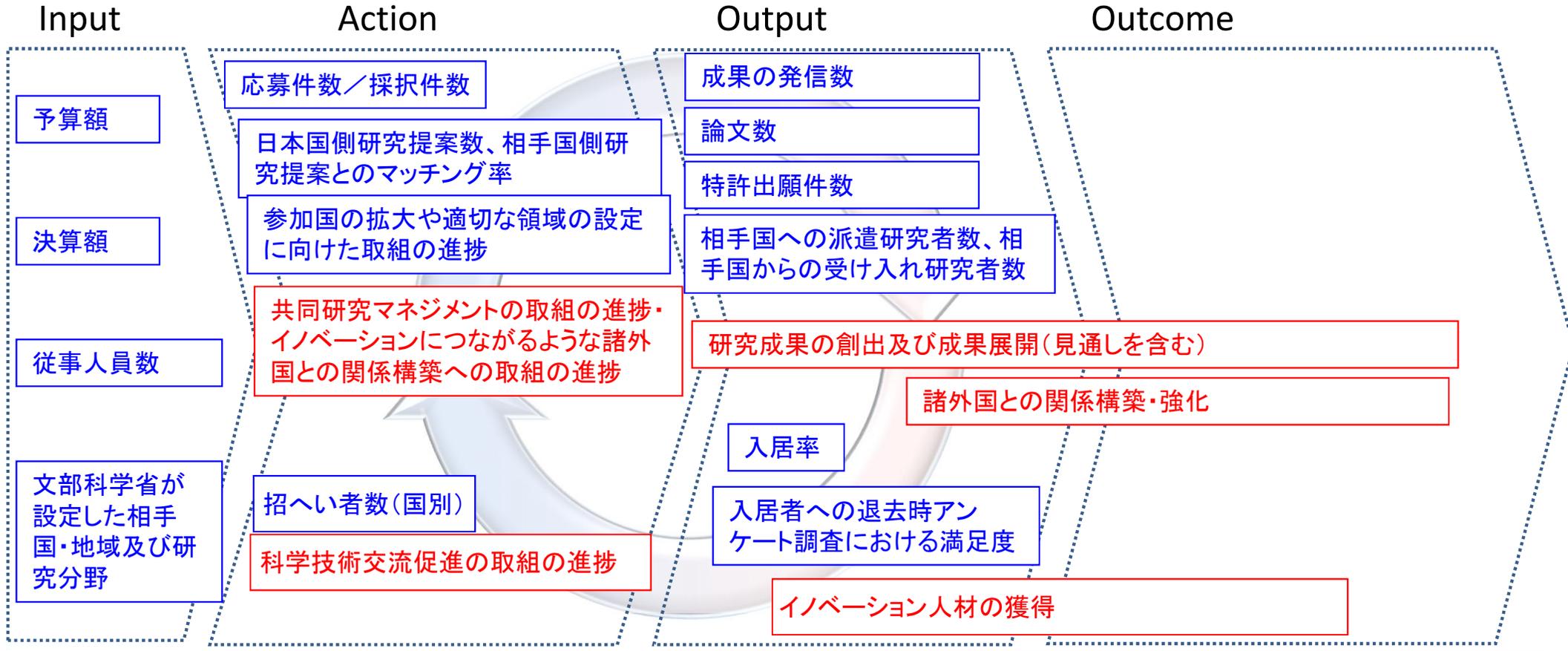
- 評価軸①: 優良課題の確保、適切な研究開発マネジメントを行っているか
- 評価軸②: 研究開発成果の実用化促進(出資・ベンチャー支援、知財支援等)の取組は適切に機能しているか

成果

- 評価軸①: 産学官共創の場が形成されているか。
- 評価軸②: 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出や経済・社会課題への対応に資する成果を生み出しているか。
- 評価軸③: 研究開発成果の実用化・社会還元が促進されているか(出資・ベンチャー支援、知財支援等)。

2.3.国境を越えて人・組織の協働を促す国際共同研究・国際交流・科学技術外交の推進(評価軸・指標)

目標: 文部科学省の示す方針に基づき、諸外国との共同研究や国際交流を推進し、地球規模課題の解決や持続的な開発目標(SDGs)等の国際共通的な課題への取組を通して、我が国の科学技術イノベーションの創出を推進する。あわせて、我が国の科学技術外交の推進に貢献する。



業務プロセス

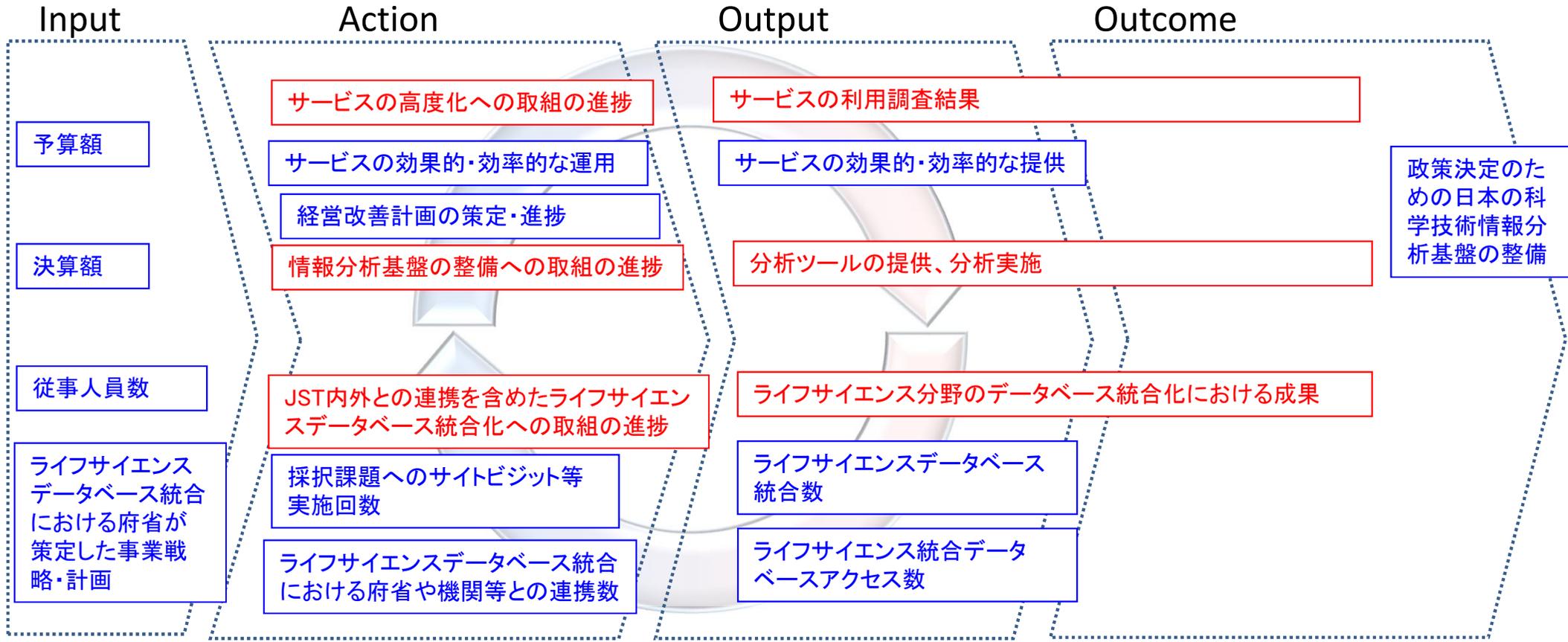
評価軸①: 国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する国際的な枠組みの下実施される共同研究等のマネジメントは適切か
 評価軸②: 科学技術交流を促進するための取組は適切か

成果

評価軸①: 国際共通的な課題の達成や我が国及び相手国の科学技術水準向上に資する研究成果や科学技術外交強化への貢献が得られているか
 評価軸②: 科学技術イノベーション人材の獲得に資する交流が促進されているか

2.4.情報基盤の強化(評価軸・指標)

目標: 我が国の研究開発活動を支える科学技術情報基盤として、オープンサイエンスの世界的な潮流を踏まえつつ、利用者が必要とする科学技術情報(論文・研究データ)や研究成果の効果的な活用と国内学協会等による研究成果の国内外に向けた発信が促進される環境を構築し、科学技術情報の流通を促進する。文部科学省が示す方針の下、様々な研究機関等によって作成されたライフサイエンス分野データベースの統合に向けて、オープンサイエンスの動向を踏まえた戦略の立案、ポータルサイトの拡充・運用及び研究開発を推進。



業務プロセス

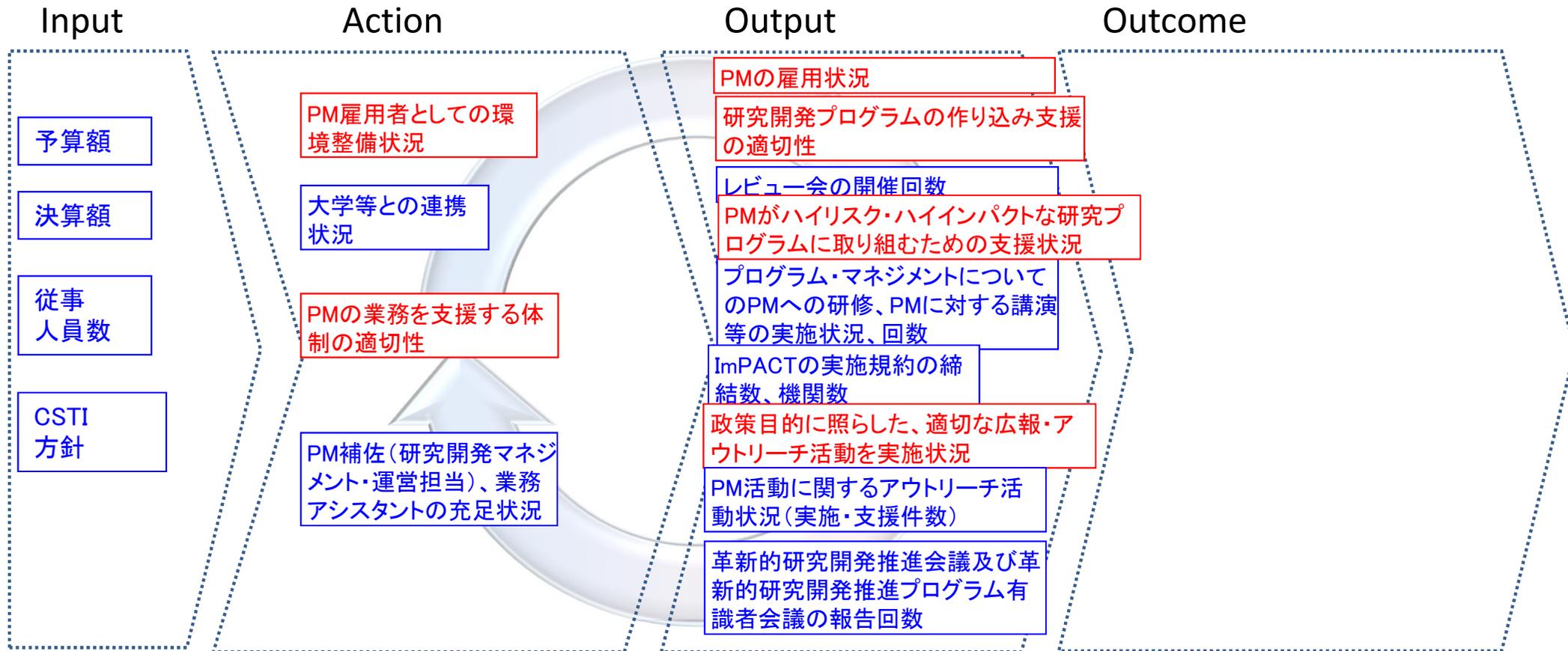
- 評価軸①: 効果的・効率的な情報収集・提供・利活用に資するための新技術の導入や開発をすることができたか
- 評価軸②: ユーザーニーズに応えた情報の高度化、高付加価値化を行っているか
- 評価軸③: ライフサイエンス分野の研究推進のためのデータベース統合の取組は適切か

成果

- 評価軸①: 科学技術イノベーションの創出に寄与するため科学技術情報の流通基盤を整備し、流通を促進できたか
- 評価軸②: ライフサイエンス研究開発の活性化に向けたデータベース統合化の取組は、効果的・効率的な研究開発を行うための研究開発環境の整備・充実に寄与しているか

2.5.革新的新技術研究開発の推進(評価軸・指標)

目標: 将来における我が国の経済社会の発展の基盤となる革新的な新技術の創出を集中的に推進するため、国から交付される補助金により基金を設け、総合科学技術・イノベーション会議が策定する方針の下、実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす科学技術イノベーションの創出を目指し、革新的な新技術の創出に係る研究開発を推進する。



業務プロセス

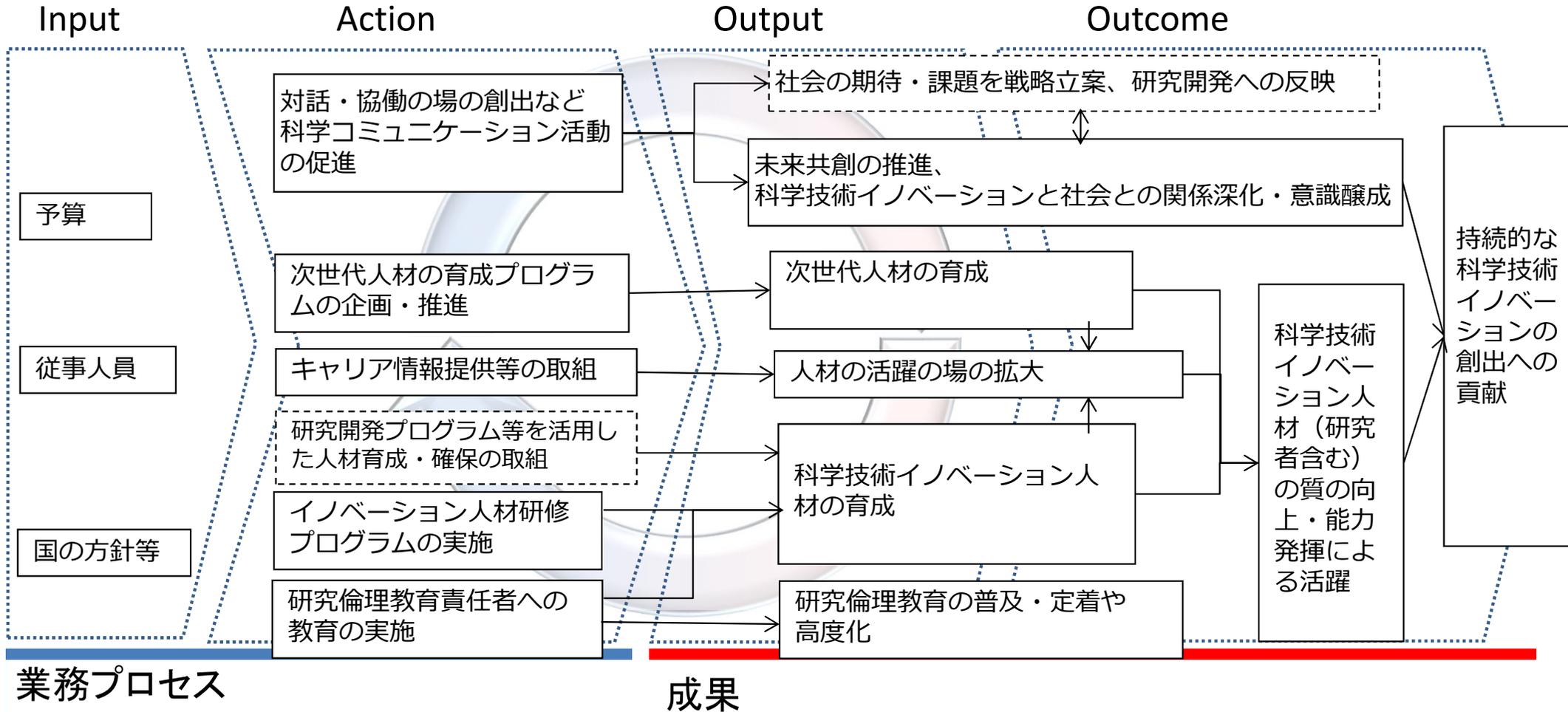
評価軸: 研究開発を推進するためのPMマネジメント支援体制は適切か

成果

評価軸: 研究開発を推進するための適切なPMマネジメント支援が来ているか

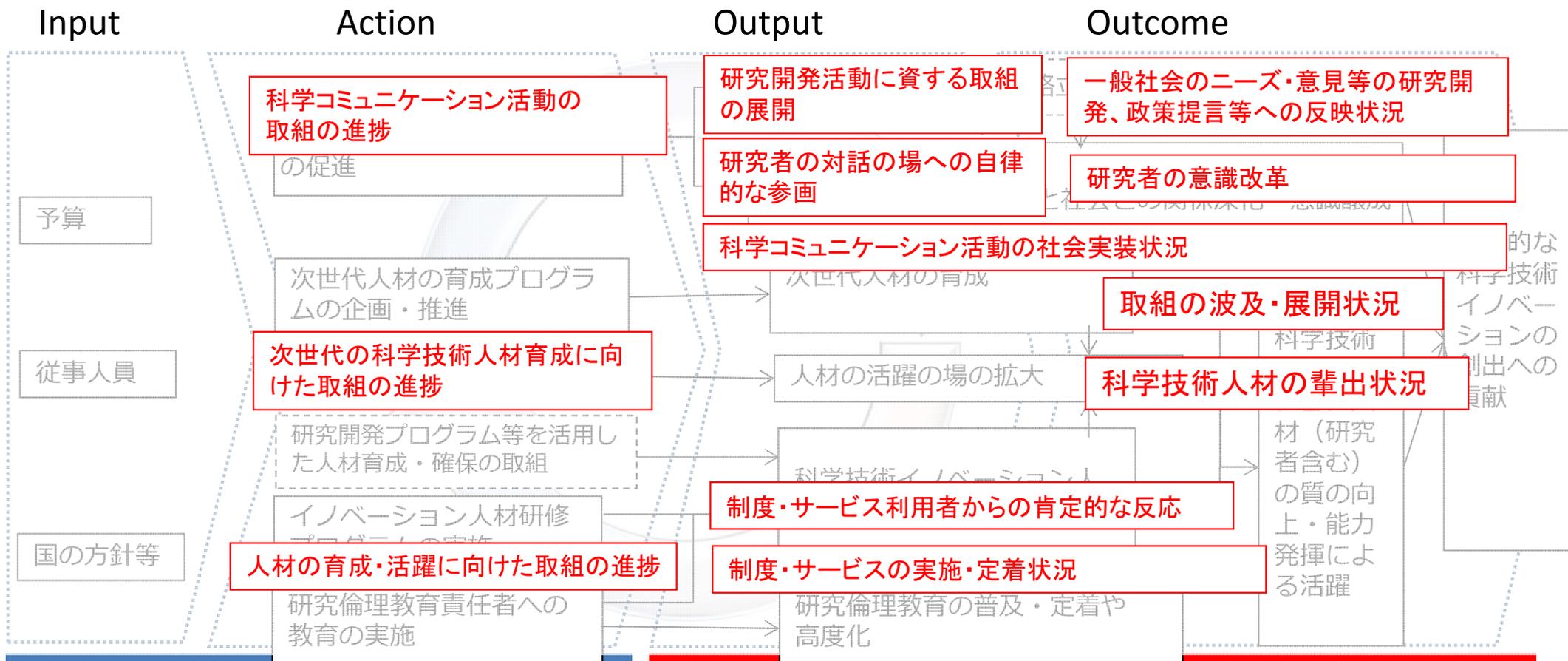
3. 未来共創の推進と未来を創る人材の育成

目標: 未来社会の共創に向けて、国内外の様々なステークホルダーの双方向での対話・協働を促すとともに、対話・協働の成果を活用し、研究開発戦略の立案・提言や研究開発の推進等に反映する。また、次世代人材の育成や科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材の育成を行う。これらにより、持続的な科学技術イノベーションの創出へ貢献する。



3.未来共創の推進と未来を創る人材の育成(評価軸・指標)

目標:未来社会の共創に向けて、国内外の様々なステークホルダーの双方向での対話・協働を促すとともに、対話・協働の成果を活用し、研究開発戦略の立案・提言や研究開発の推進等に反映する。また、次世代人材の育成や科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材の育成を行う。これらにより、持続的な科学技術イノベーションの創出へ貢献する。



業務プロセス

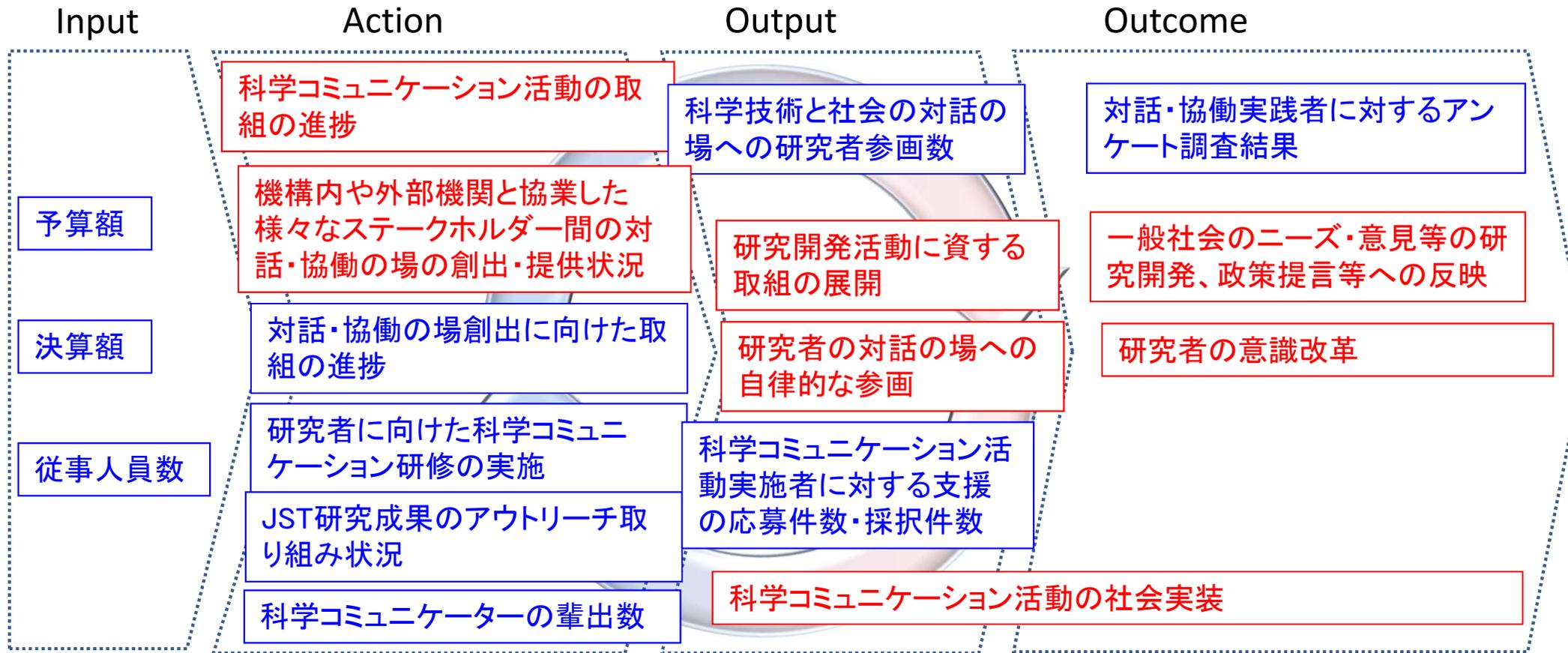
- 評価軸①: 科学技術と一般社会をつなぐ科学コミュニケーション活動は適切か
- 評価軸②: 次世代の科学技術人材育成に向け適切に取り組んでいるか
- 評価軸③: 継続的に科学技術人材を輩出するための仕組みづくりに努めているか
- 評価軸④: 支援機関に効果的な支援を実施出来ているか
- 評価軸⑤: 人材の育成・活躍に向けた取組状況

成果

- 評価軸①: 多様なステークホルダーが双方向で対話・協働し、科学技術イノベーションと社会との関係を深化させているか
- 評価軸②: 研究開発戦略立案活動と有効に連携しているか
- 評価軸③: 次世代の科学技術人材を継続的・体系的に育成できているか
- 評価軸④: 科学技術イノベーションに資する人材を育成・活躍させる仕組みを構築し、それぞれの目的とする人材の活躍の場の拡大を促進できたか

3.1.未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化(評価軸・指標)

目標: 機構は、リスクコミュニケーションを含む科学技術コミュニケーション活動を推進し、様々なステークホルダーが双方向で対話・協働する場を構築するとともに、国民の科学技術リテラシー及び研究者の社会リテラシーの向上を図る。また、対話・協働で得られた社会的期待や課題を、研究開発戦略の立案・提言や、研究開発等に反映させることにより、科学技術イノベーションと社会との関係を深化させる。



業務プロセス

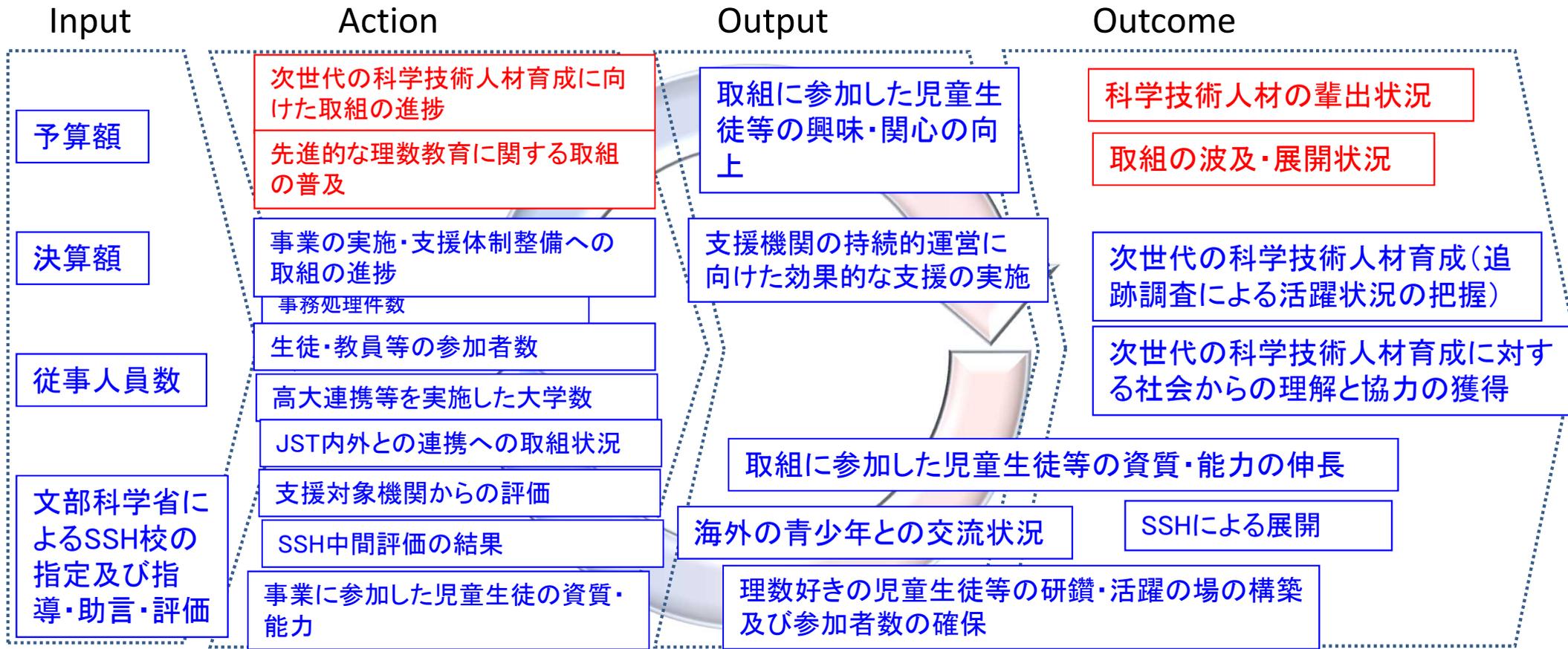
評価軸: 科学技術と一般社会をつなぐ科学コミュニケーション活動は適切か

成果

評価軸①: 多様なステークホルダーが双方向で対話・協働し、科学技術イノベーションと社会との関係を深化させているか
 評価軸②: 研究開発戦略立案活動と有効に連携しているか

3.2. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成(評価軸・指標)

目標: 次世代の科学技術を担う人材を育成するため、理数系分野に優れた資質や能力を有する児童生徒等について、その一層の伸長を図るとともに、児童生徒等の科学技術や理数系分野に関する興味・関心及び学習意欲並びに学習内容の理解の向上を図る。各取組の推進にあたっては、科学技術イノベーションと社会との関係深化を踏まえつつ、広い視野を持つ人材の育成を目指す。



業務プロセス

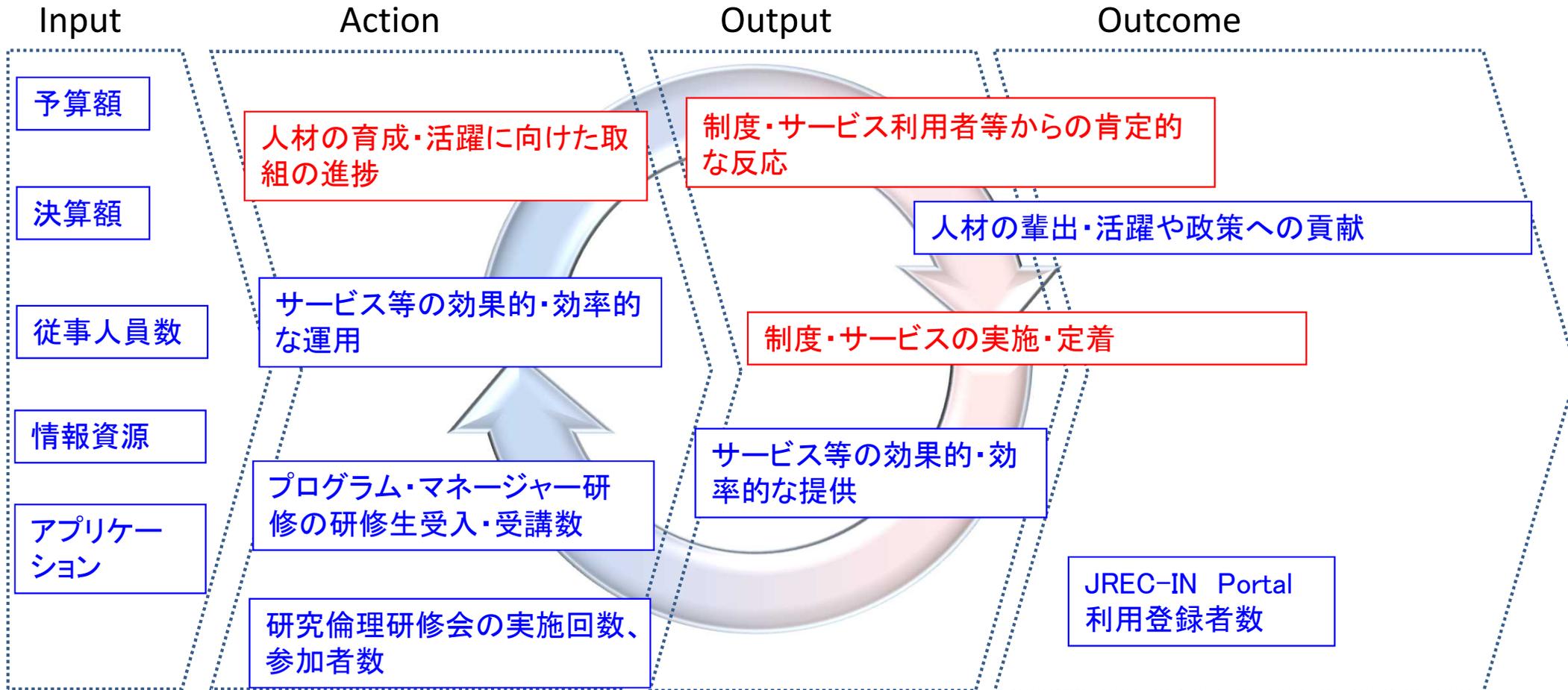
- 評価軸①: 次世代の科学技術人材育成に向け適切に取り組んでいるか
- 評価軸②: 継続的に科学技術人材を輩出するための仕組みづくりに努めているか
- 評価軸③: 支援機関に効果的な支援を実施出来ているか

成果

- 評価軸①: 次世代の科学技術人材を継続的・体系的に育成できているか
- 評価軸①: 支援機関が持続的運営に向けて効果的な活動を行っているか

3.3.イノベーションの創出に資する人材の育成(評価軸・指標)

目標: 高度人材のより多様な場での活躍を支援するため、キャリア開発に資する情報の提供及び能力開発に資する情報の提供等を行う。プログラム・マネージャーを育成するため、実践的な育成プログラムの更なる改善等の検討により効果的な運営を行い、そのキャリアパスの確立を推進する。公正な研究活動を推進するため、各研究機関において研究倫理教育が実施されるよう、文部科学省や他の公的研究資金配分機関と連携しながら、研究倫理教育の普及・定着や高度化に関する取組を行う。



業務プロセス

評価軸: 人材の育成・活躍に向けた取組状況

成果

評価軸: 科学技術イノベーションに資する人材を育成・活躍させる仕組みを構築し、それぞれの目的とする人材の活躍の場の拡大を促進できたか。